

書名	近畿の山城紀行			著者名	岡本 好雄／著			
出版社	文芸社	ISBN	978-4-286-17327-6	本体価格	¥700	発売	2016/6/15	
内容	近畿に焦点を絞った、既刊に続く山城シリーズ2冊目。今回は、山城国、大和国、摂津国、河内国、和泉国から大阪府・奈良県・京都府・兵庫県の城跡探訪と楽しさ倍増のハイキングにおすすめの17城を紹介する／高安城、二上山城、笠置山城、赤坂城、千早城、吉野城、男山城、嶽山城、如意岳城、芥川山城、滝山城、飯盛城、龍王山城、信貴山城、高取城、山崎城、伏見城							

書名	集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化			著者名	古代学研究会／編			
出版社	六一書房	ISBN	978-4-86445-079-9	本体価格	¥5,000	発売	2016/5/27	
内容	古墳という墓制から語られることの多い古墳時代への社会変化を、集落からどのように語れるのか。近畿・西日本主要地域の実態を、網羅的なデータをもとにまとめた最新の研究成果。							

書名	遺跡と技術 日本古代の交通・交流・情報3			著者名	舘野 和己・出田 和久／編			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-01730-5	本体価格	¥5,500	発売	2016/7/27	
内容	近年、全国各地で古代の道路・駅家(うまや)・関・橋・津・烽火(とぶひ)などの交通施設に関する遺構が見つまっている。考古学や歴史地理学の調査・研究成果の蓄積から、かつての古代交通のイメージが一新され景観の復原も試みられている。道路や駅家・橋などの交通施設と運搬・航海など交通に関わる技術を取り上げ、古代交通の様相を具体的に描き、その景観を考える。							

書名	古代史再検証 『万葉集』とは何か (別冊宝島)			著者名	瓜生中／監修			
出版社	宝島社	ISBN	978-4-8002-5597-6	本体価格	¥1,000	発売	2016/6/10	
内容	古代史の終末期に編纂された日本最古の和歌集『万葉集』にまつわる新説や謎を再検証。広く知られているにもかかわらず、原本はすでに消失し、編纂者さえ謎に包まれている『万葉集』を読み解くことで、「蘇我氏は悪者ではなかった」新事実や、「『万葉集』の歌に隠された藤原一族の謀略」など、教科書で習わなかった真実が明らかになります。また、全国に散在する『万葉集』ゆかりの土地も紹介しています。							

書名	聖徳太子と斑鳩三寺 (人をあらくシリーズ)			著者名	千田 稔 / 著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-06792-8	本体価格	¥2,000	発売	2016/6/25
内容	幼少よりの秀でた能力で「和」の貴さを説き、人々の苦悩を救済した聖徳太子。推古女帝を補佐して仏教の興隆に尽し、後世、太子信仰を生み出した。飛鳥・斑鳩・大阪・京都を訪ねて太子の足跡を辿り、実像を描き出す。						

書名	地図で読む「古事記」「日本書紀」 図解			著者名	武光 誠 / 著		
出版社	PHP研究所	ISBN	978-4-569-83081-0	本体価格	¥800	発売	2016/6/27
内容	「日本がいつ、どのように誕生したか」の重要なカギを握る『古事記』と『日本書紀』。あまたの神々が登場する神代の物語には、各地方の勢力争いの歴史が反映されていた！最新考古学の発見と数々の地図・資料を駆使して、日本誕生の謎を徹底解説する！						

書名	現代語古事記 ポケット版			著者名	竹田 恒泰 / 著		
出版社	学研プラス	ISBN	978-4-05-406454-6	本体価格	¥1,000	発売	2016/6/17
内容	「信じられないほど読みやすい」「はじめて最後まで完読できた」と驚きの声が続々の10万部超え人気書籍『現代語古事記』が、ポケット版として遂に登場！丁寧な現代語訳と、旧皇族の著者ならではの独自の視点による解説も読みどころ。巻末書き下ろし付き。						

書名	古代の人々の心性と環境 (異界・境界・現世)			著者名	三宅 和朗 / 著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-04630-5	本体価格	¥4,800	発売	2016/5/19
内容	現代の大都会とは異なる暗い夜、静かな音の風景(サウンドスケープ)のなか、古代の人々は研ぎ澄まされた五感を介して何を感じていたのか。生活空間の周囲に広がる異界と人々との関わりを、巨樹・古墳・ニオイ・不思議・人間の身体や声などのテーマを取り上げ、古代史料をもとに読み解く。今では忘れ去られた彼らの心性に迫ることで、現代の社会や環境を見つめ直す。						